

【常呂川】水文観測機器の適切な運用(保守、点検、維持管理)

(網走開建)

常呂川減災対策協議会において策定した減災に関する取組方針の「概ね5年で実施する取組」において、避難勧告等の発令タイミングの精度向上に資する水文観測機器の整備に関連し、水文観測機器等について、適切に運用できるよう日常の巡視、点検によって適切な維持管理を行っており、運用に支障となる箇所は、改善を図っています。

今後も、適切な維持管理を図り、水文観測機器を有効に運用していきます。

観測所、観測機器の適切な維持管理

【事例～豊実雨量観測所(設置場所 常呂川水系仁頃川流域(道管理区間))】

【取組の内容】

- ・雨量観測所の運用に支障となる周辺の木々の伐開を実施
- ・雨量観測に支障となる木々の枝はらいを実施

【取組の目的】洪水予測において、重要な要素となる雨量の観測のための観測機器を適切に運用するため、日々の巡視、点検等により、問題点を把握し、必要に応じて改善を図り、水文観測機器を適切に運用する

作業の様子



伐開



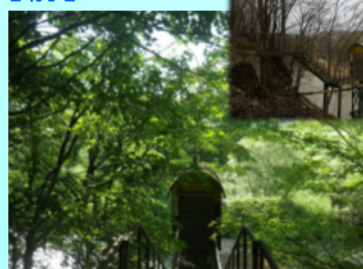
集積



積み込み

樹木が雨量観測所を覆っている状況を改善

【前】



【後】



樹木が雨水ますを覆っている状況を改善

【前】



【後】



常呂川では関係機関が連携し、大規模な氾濫の発生に備え減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進する「水防災意識社会」の再構築に取り組んでいます。

(参考) 網走開建HP : <http://www.hkd.mlit.go.jp/ab/tisui/v6dkjr00000000cf.html>